

編集後記

去る5月、「うなぎ文追放作戦」、『全員集合』で書を読もう」という記事が朝日新聞紙上に相ついで載った。前者は文章表現の教育に桃山学院大学が全学的な取り組みをはじめたこと(8日)、後者は論理的文章を書くには読書不足をなくすることが先決だという認識から、徳島大学教養部が一年生全員参加の「読書会」を計画したこと(15日)を報じたものである。

読んだり書いたりするばあい、論理あるいは話の筋道をほとんど理解せず、そしてこれらの根本原因が読書習慣のないことにあるという点で本学においても事情は全く同じであろう。我々も何とかしなければならないと前々からプライベートには話し合ってきた。しかし、いまや本学でも全学的な対策を具体的に実施しなければならない時期にきていると考える。

幸い、本学は全員ゼミ制をとっている。1, 2年生を対象とした教養ゼミを、本の読み方、レポートの書き方等学問研究上の基本的な技術を習得させる場として明確に位置づけることで、容易に全学的な対策となりうる。もとより、そのためにテキストや教え方等を統一する必要はない。各教員はその専門に応じた独自の方法を採用し、結果として前述の基本が身につけばよいのであるから。かくして3, 4年生の専門ゼミの内容充実、さらには実のある卒業論文の作成へと積極的に前進させてゆくことができるのである。あるいはまたこれがかなりの程度実現されれば、社会人になったばあいでも専門書、教養書等をきちんと読むことによって、それなりに自らの力でそれぞれの問題に対応できるようになるのではなかろうか。

本学の最大かつ緊急の課題の一つだと思うのである。

さて、予定の期日より若干遅れたとはいえ論集第1号を出すことができた。執筆者の皆さまに深く謝意を表する次第である。(H. T.)